

令和4年度 全国学力・学習状況調査について

羽島郡二町教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成19年度から実施されています（令和2年度は中止）。本年度も、小学校6年生、中学校3年生及び学校を対象として、4月19日（火）に実施しました。その結果についての報告と保護者の皆様にご協力をお願いしたいことをまとめました。

調査は「教科に関する調査」、「児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査」、「学校を対象とした学校質問紙調査」の3種類の調査が行われました。

2 調査内容

(1)教科に関する調査

小学校6年生は5年生までの学習内容、中学校3年生は2年生までの学習内容から出題されました。

□実施された科目と内容

国語、算数・数学、理科

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践評価・改善する力 等

※問題数

小学校国語：14問

小学校算数：16問

小学校理科：17問

中学校国語：14問

中学校数学：14問

中学校理科：21問

(2)児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(例) 読書時間、家庭学習の状況、授業内容の理解度、生活習慣 など

(3)学校を対象とした学校質問紙調査

◇指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

3 調査結果より

(1)国語、算数・数学、理科

- ・全国平均の正答率を基準に見ると、中学校の国語において、羽島郡の正答率は令和3年度より上昇している。(※理科については令和3年度は調査未実施のため比較対象なし)
- ・全国平均の正答率を基準に見ると、中学校の国語、数学、理科において、「記述式問題」での正答率に上昇が見られ、論理的な思考力が高まりつつある。
- ・国語では、全国平均の正答率を基準に見ると、小学校では「書く」力がよく身に付いている。また、中学校では「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」力がバランスよく身に付いている。ただし、特に小学校において、「言語の特徴や使い方に関する事項」(漢字の読み書き、文法、語句の使い方など)、は令和3年度と同様に課題である。
- ・算数・数学では、全国平均の正答率を基準に見ると、中学校では「関数」「データの活用」の領域で習熟の高さが見られる。ただし、特に小学校においては「変化と関係」「データの活用」、中学校においては「数と式」、「図形」の領域は課題である。
- ・理科では、全国平均の正答率を基準に見ると、小学校では『「エネルギー」を柱とする領域』の学習内容がよく身に付いている。また、中学校ではどの領域も習熟度が高く、特に『「生命」を柱とする領域』の習熟によく優れている。ただし、特に小学校においては『「地球」を柱とする領域』は課題である。

<成果○と課題△の具体>

	小学校	中学校
国語	<p>○話し合いの様子において、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える。</p> <p>○文章全体の構成や書き出し方などに着目して、文や文章を整える。</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよさを見付けて書く。</p> <p>△物語で、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について考える。</p> <p>△漢字を文の中で正しく使って書く。 (ろくが、はんせい、<u>したしむ</u>)</p> <p>△漢字や仮名の大きさ、配列に注意して文章を書く。</p>	<p>○スピーチで自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。</p> <p>○資料の一部から必要な情報を引用し、自分の考えが伝わる文章になるよう、根拠を明確にして書く。</p> <p>○文学的な文章の場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、話の展開を取り上げて適切に書く。</p> <p>△表現の技法(比喩)について理解する。 (その名称を書いたり、同じ技法が使われている表現を選んだりする。)</p> <p>△文脈に即して漢字を正しく書く。(よ<u>ろこんで</u>)</p>
算数・	<p>○基本的な四則演算を用いて、計算する。</p> <p>○「プログラム」を用いて長方形をかく</p>	<p>○容器のふたを繰り返し投げたときに下向きになる確率を選ぶ。</p> <p>○同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$</p>

数学	<p>際の、向かい合う辺の長さを求める。 $\triangle 85 \times 21$ の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。 \triangle 果汁が 25% 含まれている飲み物の量を基にしたときの果汁の量の割合を分数で表したり、果汁が 180 mL 入っているときの飲み物の量の求め方を答えたりする。(割合の問題や、複数の数値が変化する問題)</p>	<p>について、n が 9 のときどのような計算を表しているかを書く。 $\triangle 42$ を素因数分解する。 \triangle 平行な 2 本の直線をもとに四角形をかく時、ある条件でかいた場合平行四辺形となるという予想がある。その予想が、いつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ。</p>
理科	<p>○一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く。 ○鏡ではね返した日光を重ねるほどの温度は高くなるのかを調べる実験において、いくつかある実験結果から問題を解決するために適切な実験結果を選ぶ。 \triangle 鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く。(水が水蒸気になって空気中に含まれていることはある程度理解できているが、それが語句として定着していない。)</p>	<p>○関節の曲がる向きの共通点があるという視点から、カラスのあしの関節 A がヒトとカエルの骨格のどの部分にあたるかを適切に選ぶ。 ○ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係を表したグラフを適切に選ぶ。 ○磁石を使ったばねを探究する場面において、実験の考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できる。 \triangle 玄武岩の露頭で化石が観察できるかを選ぶ。(堆積岩に化石が含まれる可能性があるという知識はあるが、玄武岩が火成岩であるという知識が身に付いていない。)</p>

(2)児童生徒質問紙

<小学校>

- ・平成30年度からの変化を見ると、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」は年々高くなってきている。また、令和元年度からの変化を見ると、「学校に行くのは楽しいと思う」も高まってきている。一方で、「自分には、よいところがあると思う」、「学校の授業時間以外での一日あたりの学習時間」、「新聞を読んでいる」は年々低くなっている。
- ・令和3年度と比較すると、「携帯電話・スマホやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「学

習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」等の意識が高まっている。一方で、「学校の授業時間以外での一日あたりの読書時間」、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」等は低くなってきている。

<中学校>

- ・平成30年度からの変化を見ると、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」は年々少しずつ高くなってきている。また、令和元年からの変化を見ると、「自分にはよいところがあると思う」、「学校の授業時間以外での一日あたりの読書時間」も高まってきている。一方で、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」、「新聞を読んでいる」等は低くなってきている。
- ・令和3年度と比較すると、「一日あたりのテレビゲーム（スマホ等のゲーム含）をする時間（短い生徒）」、「自分にはよいところがあると思う」、「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」等の意識は高まっている。一方で、「将来の夢や目標をもっている」、「家で自分で計画を立てて勉強している」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」等は低くなってきている。

<その他>

- ・特に小学校では、「朝食や就寝・起床時刻」など家庭生活での生活に関わり、規則正しい生活をしている児童ほど正答率が高い。また、「自分で決めたことは、やり遂げるようにしている」児童ほど正答率が高い。
- ・特に中学校では、「自分にはよいところがあると思う」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」等、自己肯定感もっている生徒ほど正答率が高い。
- ・「テレビゲーム(スマホ等のゲーム含)やネットを使う時間が少ない」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・授業で「課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組んでいる」、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ってきた」、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・「国語（算数・数学、理科）の勉強が好きだ」、「算数（数学）の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」、「算数（数学）の授業で公式やきまり

を習うとき、そのわけを理解するようにしている」児童生徒ほど正答率が高い。

4 学力向上に向けての羽島郡二町内の小中学校の取組

羽島郡内の小中学校では、学力の向上を目指して、次の二点について取り組んでいます。

- (1) 授業では、『羽島郡「授業マニフェスト4」』に取り組んでいます。
 - ・授業はチャイムで始め、チャイムで終わります。
 - ・子どもの話を最後まで聞きとります。
 - ・課題とまとめを丁寧な文字で書きます。
 - ・授業の最後に子どものよいところをほめます。
- (2) 各校の実態に応じて、毎年「指導改善プラン」を作成し、各校にて下記の内容について、工夫して取り組んでいます。
 - ・「A校内研究」、「B補充」(基礎・基本の定着)、「C家庭学習」、「D個別最適な学び」、
 - 「E協働的な学び」、「F授業マニフェスト4」

5 保護者の皆様へ

◇子どもは褒められて育ちます

子どもを褒める時には、家庭での過ごし方の約束を作ることが大切になります。家庭学習の時間、家族の一員としての役割、スマホやパソコン(タブレット)の使い方などについて約束を決めて、必ずやりきらせて褒めましょう。「時間やルールを守る生活をするとういことがある」と、子どもたちが実感できるようにしたいです。そのために、やりきって褒められる生活サイクルを確立させましょう。

◇いつも成長の願いをもって見守ってください。

子どもに対して成長の願いをもって見守っていると、小さな成長や成果にも気が付くようになります。また、結果には表れなかったことでも、努力した過程を認めることができます。そうすることで、期待に応えようとする前向きな心や自己肯定感が育ちます。

子どもには無限の可能性が秘められています。どの子もよりよく生きたいという願いをもって、その可能性や願いを最大限に引き出し、前を向いて、素直に歩む子どもになるよう育てていきましょう。